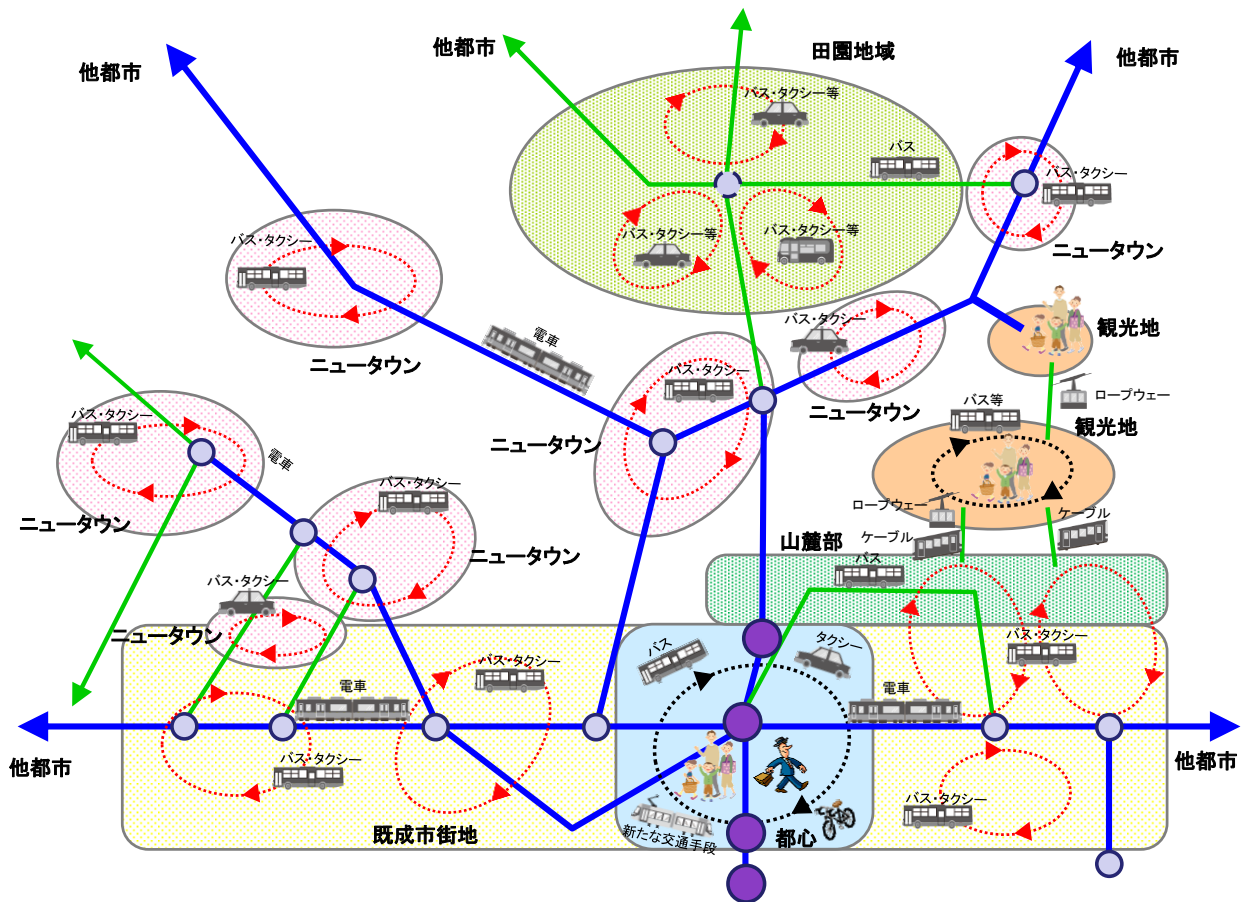


# 3. 都市交通

## ■公共交通ネットワーク

神戸の市街地は、既に鉄道駅を中心として、都市機能がまとまって立地しているコンパクトな都市構造が概ね形成されています。これを活かし、鉄道が基幹、バスが補完（フィーダー）する役割を担うことを基本とし、さらに、地域に密着した公共交通として、バスやタクシーによる地域コミュニティ交通の充実を図ります。これらの公共交通ネットワークにより、安全・安心で誰もが利用しやすく快適な交通環境を実現します。また、都心や観光地では、多様な交通手段による回遊性の向上を図り、まちの賑わいづくりを推進します

公共交通ネットワークの将来像



## ■交通結節機能の向上（三宮駅）

神戸の玄関口である三宮駅周辺は、商業、業務、文化施設等が集積するとともに、JR、阪急、阪神、地下鉄、ポートライナー等の6つの駅が集まり、1日約70万人の鉄道乗降客が利用する市内最大のターミナルです。またポートライナーにより神戸空港とも結ばれていることから、空の交通との結節点としても重要な拠点となっています。

現在、三宮駅周辺では、「三宮周辺地区の『再整備基本構想』（平成27年9月策定）」において位置づけた、「えきまち空間」の実現を目指し、取り組みを進めています。

具体的には、

- ・「三宮クロススクエア」の創出により、駅からまちへの回遊性を向上
- ・分かりやすい縦動線の整備による、歩行者動線の強化・乗換え動線の「見通し」の確保等により、駅と駅とのつながりを強化
- ・駅前広場機能の再配分と駅周辺の歩行者空間の整備
- ・都心における公共交通(LRT・BRT・循環バス)等やシェアサイクルなど、多様な回遊手段の確保
- ・新たなバスターミナルの整備による、中・長距離バス乗降場の集約
- ・路線バス乗降場の方面別の集約

などを推進し、「誰にでも分かりやすい交通結節点」を目指します。

三宮クロススクエア東側（イメージパース）



新バスターミナル（I期）ビルイメージ



## ■地域コミュニティ交通の維持・充実

鉄道駅や生活利便施設などへの移動手段を確保するために、鉄道や路線バスといった既存の公共交通サービスが十分に行き届かない地域において、多様な地域コミュニティ交通の導入を進めています。

・ からとんくるりんバス（北区唐櫃台）



・ はまちどり（須磨区西須磨）

